

浄瑠璃寺(木津川市)

ここが浄瑠璃寺/東の薬師如来を祀る三重塔、中央宝池、西の阿弥陀如来九体を安置する本堂(九体阿弥陀堂)から構成される



当 尾

京都府歴史的な自然環境保全地域

昭和六十年十二月二十日指定

(京都府木津川市加茂町)

当尾地域は、奈良の興福寺の別所として、平安時代後期から鎌倉時代にかけて、多数の石仏や寺院が造立されるなど、仏教文化の花開いた地域です。ここ浄瑠璃寺もそうした別所の一つとして平安時代後期に創建されたもので、池を挟んで東西に国宝の三重塔と九体阿弥陀堂が建ち、此岸と彼岸、浄土の世界を現しています。中央の苑池には州浜敷きが復元された中島などがあり、平安時代後期に建立された本堂は、九体阿弥陀堂建築の現存する唯一の遺例です。庭園は特別名勝及び史跡に指定され、また、周辺の山々には、優れた植生の自然環境が良く保存されています。

京都府

正面が九体阿弥陀堂/国宝/平安時代後期(1157年)の建立/一重の寄棟造り/本瓦葺き(建立当時は檜皮葺きだったらしい)/向拝の前に立つ石灯籠は南北朝時代(1366年)造立の重要文化財



中央には向拝が付けられているが、これは江戸時代の末期に加えられたものらしい





向拝の付く本堂正面



両端の2間を除く内側9間には観音開きの板戸が付けられており、さらにその内部には障子戸が嵌められている



左手端の間



側面から



内部中央に一体と、その左右に4体ずつ、計9体の阿弥陀如来像を祀る為に、桁行11間と極めて横長に造られている



柱に直接桁を載せる



両端は簡素な舟肘木



振り返ると浄土式庭園(特別名勝及び史跡)の対岸に薬師如来を祀る三重塔が見える



アップで見たところ/三重塔への階段手前に立つ石灯笼も南北朝時代造立の重要文化財/本堂前と対を成す



正面は宝池の中心に浮かぶ弁財天を祀る島/この島の先端には立石(左手)が配されていて、この立石は二基の石灯籠を結ぶその直線上に位置しているという



これが三重塔/国宝/平安後期の建立らしい



屋根は檜皮葺



初重周囲には高欄の無い縁が、二重、三重には縁高欄が巡らされている/中央間には板唐戸が、脇間には連子窓が設けられている/組物は三手先で、軒は二軒繁垂木、軒桁を支える中備は、中央間のみ間斗束が置かれている



芯柱が二層から立てられているという(初重に柱が無いので、そのスペースを仏堂のように使えるようになった)/このように初重内部に柱を設けない構造の塔は、現存するものとしては浄瑠璃寺のものが最古らしい



三重塔から見た九体阿弥陀堂(本堂)



仏像はほとんどが藤原時代のもの

淨瑠璃寺（九ヶ寺）

この寺は平安時代後期（藤原朝）の日本が生みだした浄土三伽藍のただ一つ完全に残されてきた寺である。即ち西方極樂浄土の阿彌陀如來を西に、東方淨瑠璃浄土の藥師如來を東に、中央には宝池をわけて美しい浄土を現出している。しかも西の阿彌陀如來はこれも現在はただ一つになった九体仏である。特別名勝、史跡指定の境内には四件の国宝、八件の重要文化財、教にして二十五のこれら宝物が昔のままを守り通されている。藤原時代の当塔、仏像、庭園がまごころで存在する。この浄土式伽藍はいつまでもみんなの力で守らなければならぬ。

淨瑠璃浄土とはすみこった清浄と静寂の世界という。境内では特に静かにならぬとぬくぬくを感さすけよう。

参考ホームページ

<http://homepage2.nifty.com/ashibinomise/joururizi.htm>

<http://www.y-morimoto.com/hananotera/16johruri.html>

<http://kankodori.net/japaneseculture/treasure/021/index.html>

<http://kankodori.net/japaneseculture/beauty/016/index.html>

<http://www.eonet.ne.jp/~kotonara/jyorujiruii.htm>

